



—北アフリカ地域ニュース—

リビア：ジャルード少将の動向 (10月27、28日、11月1、4日付現地各紙)

10月27、28日、11月1、4日付現地各紙は、アブドゥッサラーム・ジャルード少将が首相となる可能性について論じている（同少将は、革命時のカッザーフィー指導者の盟友で、一時、ナンバー2の実力者と見られたが、現在は引退状態）。

1. 10月27日付AKI通信（ネット版）

信用できる筋によれば、ジャルード少将がマフムディー首相の後継者になろうとしている。ジャルード少将は1941年生まれ、1969年9月のアル＝ファーティハ革命に参加、1972年から1977年まで首相を務めた。

2. 10月28日付オエア紙（リビア現地紙）

リビアに蔓延する汚職を取り除くため、カッザーフィー指導者に対し、ジャルード少将を首相に任命するよう求めるべきだ。ジャルード少将は国家機関を運営するのに十分な知識を有している。同時にムスタファー・ハルービー將軍を国会議長に、ホウェルディー・フメイディー將軍を治安機関長官に、アブーバクル・ユニス・ジャーベル中將を現在の暫定国防書記から恒久的な国防大臣に任命するよう求める（この3人はいずれも、カッザーフィー指導者とともにアル＝ファーティハ革命に参加）。

注：4日付リビア・プレスによると、マフムディー首相は上記の記事の掲載を理由にオエア紙を発刊停止処分とする決定を下した。

3. 11月1日アルジャジーラ・ネット論評

(1) 最近、メディアにジャルード少将の名が登場したことに関し、政治評論家ファトヒー・バアジャ氏は、カッザーフィー指導者の子息であるセイフ・アルイスラーム・カッザーフィー国際慈善開発基金総裁が率いる国内潮流に対抗するため、ジャルード少将が首相となる可能性もあると指摘する。ジャルード少将の復帰は、石油政策において実行力を求める国際石油権益の意向にも合致するものである。

(2) リビアのアルガド・ニュースセンター所長であるファイズ・スウィースリー氏は、カッザーフィー指導者が2年前、かつての革命指導評議会メンバーが再度権限を掌握するという考えを述べたと指摘するとともに、ジャルード少将に関する噂は、それが正式に提案されたとしても容易に実施できるものではないと述べた。